

サトウキビさいばいで CO₂をへらす

1/3ページ



活動の動機

テレビのニュースで、もう暑で、野菜が育たないと言っているのを見ました。暑くなると、植物が気孔をとじ、光合成ができなくなるといわれるためです。植物が、CO₂をきゅうする光合成は、CO₂さくげんになります。ぼくは、暑くても光合成をすることができ、暑さに強い植物を育てることが、CO₂さくげんになると考えました。

ぼくの家は農家です。ぼくの家畑も、野菜や梅の木に元気ありません。そのなかで、逆に、もう暑くなってから、速いスピードで成長している植物がありました。それは、ぼくが春に植えて育てているサトウキビです。ぼくは、サトウキビを植えることがCO₂さくげんになると考えました。

インターネットで調べてみると、サトウキビは、高温でたくさん光合成する植物だということが分かりました。50℃ぐらいでも、ふつうに光合成できるそうです。

活動の内よう (夏休み中の世話・観さつ)

夏休み中の世話

水やり	7/21	7/24	7/27	7/30	8/2	8/5	8/8	8/12	8/17	8/23
ひ料やり	8/1									
草かり	7/25	8/17								

ひ料は、けいふんたいひです。

観さつ

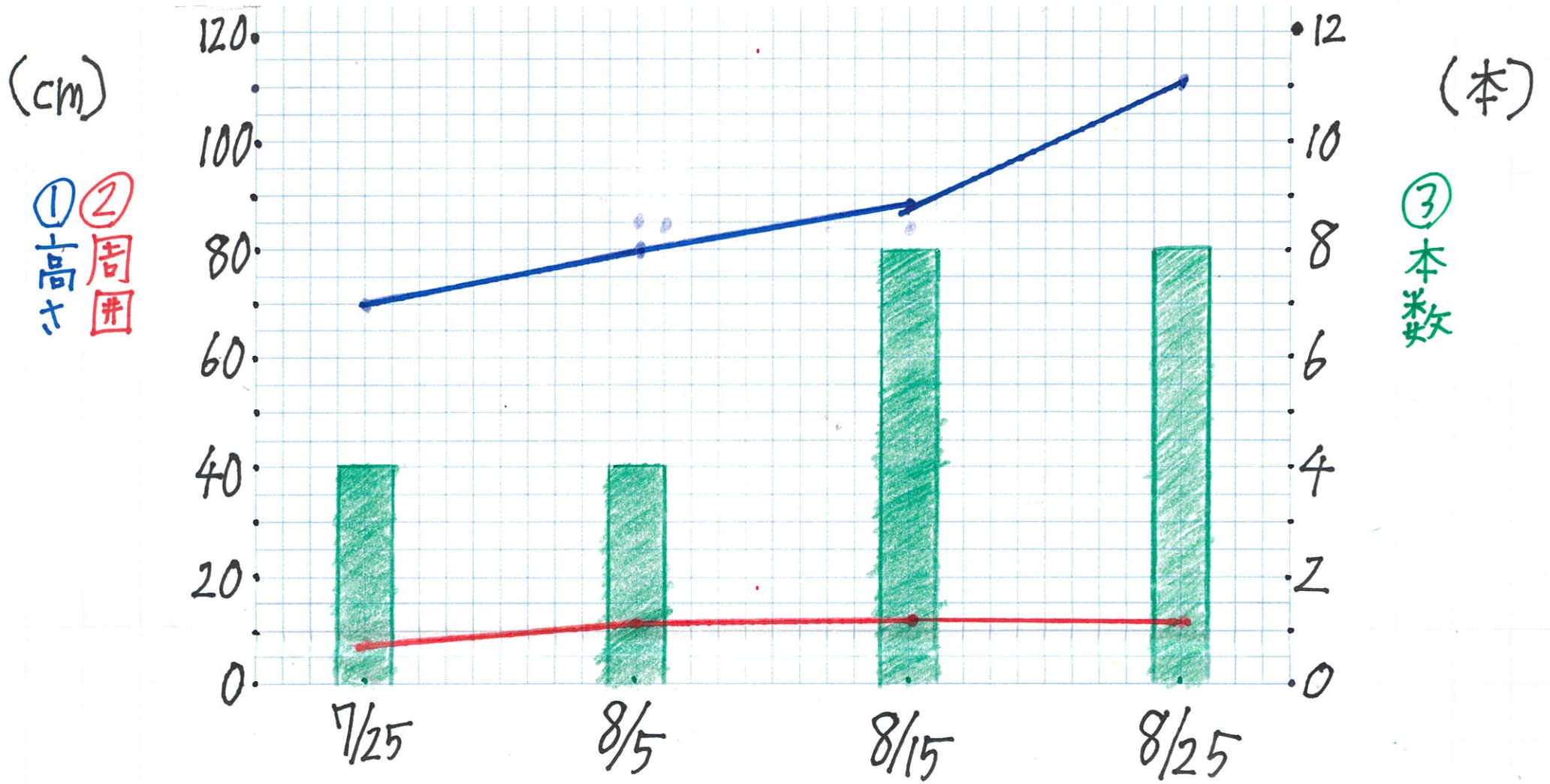
正しくは、しゃうかくして、かんそうさせて、重さをはかると、CO₂のきゅうしゃう量を計算するそうです。でも、まだしゃうかくできないので、①一番太いサトウキビのクキだけの高さ(葉はふくまない)、②一番太いサトウキビの地面から30cmのところのクキの周長の長さ、③1つのカブから出ているサトウキビの本数を観さつすることにしました。

2ページ目にフブく→

2/3ページ

観さつの結果

	7/25	8/5	8/15	8/25
① 高さ	70 cm	80 cm	89 cm	110 cm
② 周囲	8.50 cm	11.3 cm	12 cm	12 cm
③ 本数	4本	4本	8本	8本



- ① 一番太いサトウキビのクキだけの高さ (葉はふくまない)
- ② 一番太いサトウキビの地面から30 cmのところのクキの周囲の長さ
- ③ 1つのカブから出ているサトウキビの本数

44gのCO₂が
30gのサトウキビ (かんそう
の重さ)になるそうです!!

3ページ目につづく →

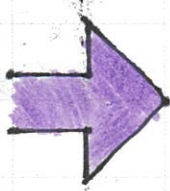
3/3ページ

まとめ

1か月間で、すくすく成長しました。1つのカブから出ていま
る本数も2倍にふえました。秋のシャカまで、まだいま
だ成長できそうです。重さをはかれないので、この2量
したと思います。たくさんさんのCO₂を光合成でキャッチ
サトウキビは、しるをつめて、砂とうを作ることができま
す。しぼりかすは、たいみや、動物のえさにできるそうです。
エタノールというおん料も作れるそうです。家庭菜園や、使われていない畑や、学校などに、サトウキビ
をたくさん植えると良いと思います。そうしたら、砂とう作り
ができて楽しいし、CO₂がさくげんできて、地球温暖化ほ
う止になると思います。

調べたインターネットサイト
琉球大学学術リポジトリ 「サトウキビの光合成による炭酸
ガス (CO₂) 上昇抑制効果」
<https://u-ryukyuu.repo.nii.ac.jp/records/12015508>

7/25



8/25



8/25 1つのカブから、
8本出ています。

